

ドイチェ・アセット・マネジメン

「DWS グローバル公益債券ファンド(毎月分配型)」設定10周年 前編

投資環境は「今こそ公益債券の時代」に

運用部ポートフォリオマネジャーの篠崎彩氏に聞く

ファンド情報

ドイチェ・アセット・マネジメンの「DWS グローバル公益債券ファンド」は、毎月分配型のAコース（為替ヘッジあり）／Bコース（為替ヘッジなし）、年1回決算型のCコース（為替ヘッジあり）／Dコース（為替ヘッジなし）の4コースをそろえているが、このうち毎月分配型は2009年4月30日に設定してから10周年を迎えた。設定来の騰落率（5月31日現在）は、Aコースが37.01%の上昇、Bコースが57.93%の上昇と高いパフォーマンスを維持している。ここにきて世界景気への先行き不安が高まる中で、同社は「今こそ公益債券の時代」ととらえている。同ファンドの主要な投資対象である公益債券とは何か、その魅力や強みなどについて、同社運用部ポートフォリオマネジャーの篠崎彩氏に聞いた。



た。金利上昇による景気後退という悲観的な見方が落ち着いてきたことで、公益債券のスプレッドも順調に縮小してきており、価格の面ではプラスで、投資環境は追い風に変わってきている。

ミドルリスク・ミドルリターンのニーズに対応

■設定の背景

「DWS グローバル公益債券ファンド」の毎月分配型は、設定日が09年4月30日と、リーマン・ショックの約半年後に運用を開始したものだ。当時、金融危機によって投資家はリスクに対して敏感になっていた。ファンドの安定・信頼性へのニーズが高まっているとの判断から、変動の激しい時代でも、投資家に安心して長く保有していただけるコア資産を目指して設定した経緯がある。投資家の方々のリスク回避的な動きに対応して、どのような商品を提供すれば良いかと考えた時、まず安定した商品としての債券、その中でも利回りが取れる社債が有利と考えた。さらにセクターについても安定性を重視し、デフォルト率の低さで1、2を争う公益債券を選んだ。しかも、公益セクターは一般の方にもなじみがあるという良さがある。電気、ガス、水道などは日々の生活に密着したサービスであり、投資家の方にも分かりやすいと考えた。リスクを抑えながらリターンをコツコツと追求していける、つまりミドルリスク・ミドルリターンで、長くお持ちいただけるファンドと判断して立ち上げ、現在も同じコンセプトで提供している。当ファンドは、親会社が海外で立ち上げていた既存のファンドを、日本の投資家向け仕様にして持ち込んだものではなく、日本で独自に商品を開発したファンドだ。

■これまでの経緯

当ファンドは、欧州債務危機が発生した12年ごろから純資産残高が急増した。リスクを抑えながら安定した利回りが期待できるという理由で、投資家の方々に注目していただいた。投資対象となる公益債券については、欧州債務危機の影響でスプレッドが拡大する局面もあった。しかし、公益債券市場全体としては堅調を維持し、当ファンドの基準価額が上昇したことも、投資家の方々から支持をいただく要因となった。特にAコース（為替ヘッジあり）の場合、純資産総額は1300億円を超える時期もあった。その後、株式相場が上昇局面に入ると投資家の関心もそちらに移ったが、ここにきて先行きの不確実な状況が当ファンドに対するニーズを再び呼び起こしていると考えている。

■投資環境が追い風に

昨年、公益債券ファンドにとって厳しい環境にあった。これは金利が上昇してきたことによるものだ。通常、金利が上がるのは景気が良い時で、社債のスプレッドが縮小していくことで価格にはプラスに働く。しかし、昨年は、金利上昇が景気を後退させるという不安につながって、金利上昇とともにスプレッドが拡大する状況が起きた。しかし、今年に入って状況は一変した。金利上昇リスクは大幅に後退したと当社では考えている。米10年国債利回りの1年後（20年6月）の見通しについて、当社は先ごろ2.3%へと引き下げ

■公益債券の強み

1つ目は公益セクターの業種としての安定性。景気不安も台頭しているが、仮に景気が下向きになっても、公益セクターは業績が景気循環に左右されにくいという特徴がある。電気は日常生活に不可欠なもので、基本的に使用量が大きく変わることはない。ガスも水道も同じだ。公益セクターは公共料金など安定したキャッシュフローが期待され、景気が後退しても事業は安定している。また規制産業でもある。主要な国では、国民にとって経営が揺らいではならない性格の公益企業に対して、事業が守られるような規制が敷かれている。この点も安心感につながると考えている。2つ目は利回りの安定性。公益債券の残存年数は長期のものが多く、その分金利収入も相対的に高くなっている。国債より高い金利収入をコツコツと積み上げることで価格変動のクッションになることが期待される。3つ目は信用力の安定性。公益債券の中でも、信用力の高い投資適格社債を組み入れていることが強みとなっている。当ファンドのポートフォリオは平均格付けがAマイナスだ。投資適格の海外の社債ファンドでも、平均格付けがトリプルB格のものが多い中で、当ファンドはかなり高めといえる。当ファンドが投資対象としている社債の格付けはトリプルB格以上としているが、ポートフォリオ全体ではA格以上になることを目指して組み入れている。